

多数傷病者事故救出訓練

一人でも多くの命を救うために

3月8日に田川市郡の市町村や消防・警察・医師会など、災害時に救援活動を行う各機関が参加した多数傷病者事故救出訓練が田川市で行われました。震度5強の地震により石炭・歴史博物館で建物被害や火災が発生したと想定し、多数の負傷者の救出や避難誘導など実践的な訓練を実施。参加者たちは、有事さながらの真剣な表情で訓練に取り組んでいました。



↑ 屋上から逃げられなくなった傷病者を、ワイヤーを使って救出するレスキュー隊。

↓ 窯元11人の丁寧な指導のもと、14名四方の陶板にへらを使って制作する卒業生。



赤池中3年生卒業制作「陶板づくり」
陶板に刻んだ思い出を新校舎に

「卒業の証しを新校舎に残してほしい」と、上野焼協同組合が企画した赤池中3年生の卒業制作「陶板づくり」が、3月4日に行われました。配布された粘土板に「笑」や「楽」など、中学校生活での思い出を一文字で表現した卒業生。3年間で振り返りながら、思い出を刻んでいました。なお、作品は、春の陶器まつり期間中、陶芸館に展示されたのち、新校舎に飾られます。

↓ 県内最大級の「エドヒガン」で、推定樹齢600年以上。今年も鮮やかな緑色の花をつけ、来訪者を魅了しました。



虎尾桜観賞会と福智山自然・史跡探訪
福智が誇る歴史と自然を堪能

「虎尾桜を心配する世話人会」主催の虎尾桜観賞会と福智山の自然・史跡を巡る登山が3月23日に行われました。今年は例年より桜の開花が早く訪れたため、予定した日程を早めての開催となりました。参加者たちは上野焼開祖「尊楷」ゆかりの名所や福智中宮神社など、福智山に点在する貴重な史跡と雄大な自然を約2時間かけて観賞。最終目的地である虎尾桜の観賞会場では、世話人会のメンバーが用意した豚汁が全員に振る舞われ、参加者たちは可憐な虎尾桜の姿を見ながら、登山での疲れを癒していました。

高校生理科研究発表会

必ずストライクを取る条件を探る

「ボーリングで必ずストライクは出せるのか」その可能性を探る研究に取り組んだ滝本航士郎さん(伊方)ら鞍手高校生3人が、その成果を2月10日と11日に長崎県で行われた「高校生理科研究発表会」で県代表として発表しました。「絶対ストライク」の条件を探るため、放課後を利用して約5ヶ月間研究を重ねた3人。統計を出してまとめた研究結果が県の代表に選ばれ、九州大会での発表となりました。



← 自作の実験装置の前で笑顔のぞかせる、滝本さん(写真中央)ら若き研究者たち。

↓ 「床上のチェス」の別名を持つカラーリング。相手の出方を見つつ、一投を放ちます。



福智町カラーリング大会決勝
老若男女が同じ的を狙って競い合う

町体育協会主催の福智町カラーリング大会決勝戦が3月4日に金田体育館で開催されました。2月17日に3地区で予選が行われ、全126チームの中から36チームが決勝に進出。決勝では、精鋭たちが互いにチームワークと絶妙な技術を出し合い、熱戦が繰り広げられました。結果は以下の通り。優勝：南木A、2位：四つ葉会A、3位：上金田保存会、4位：宝珠A

さけの稚魚放流

命育む美しい川への願いを込めて

赤池中1年生やひこさんがわ夢の会など約100人による「さけの稚魚放流」が、3月12日に市場小前の河川敷で行われました。さけが遡上してこられるような川を目指して続けられている取り組みで、今年で11回目。参加者たちは、国交省職員による遠賀川の説明などで川の重要性を学んだ後、川の環境保全を胸に誓いながら、約2千匹の稚魚を優しく放流していました。



↑ 「またここで会おうね」と優しく声をかけながら、稚魚を放流した赤池中1年生。

↓ 別れの悲しみや未来への希望を噛みしめながら、証書を受け取る卒業生(方城中)。



町内3中学校で卒業式
決意を胸に母校から飛び立った227人

町内3中学校の卒業式が3月14日に行われ、9年間の義務教育を終えた卒業生227人(方城中73人、金田中85人、赤池中69人)が思い出の詰まった母校から巣立ちました。保護者や在校生に見守られながら、校長先生から一人ひとりに卒業証書を手渡された卒業生たち。少しの不安と大きな希望を胸に、清々しい表情でそれぞれの新たな進路へと旅立ちました。